

ダイアジノン・メソミル粒剤 ランダイヤ粒剤	取扱メーカー： クミカ 原体メーカー： 日本化薬、デュポン
成分： ダイアジノン〔有機リン系 PRTR・1 種〕……………3.0% メソミル〔カーバメート系 PRTR・1 種〕……………1.0%	性状： 灰褐色細粒 毒性： 劇物 消防法： ——

【品目特性】 ……………

- ランネート 45 DF の項参照。
- ガス効果と接触効果の両作用により、土壌害虫防除を目的とする。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】 ……………

- ネキリムシに対しては、は種又は定植前に土壌混和処理する。
- かんしょのコガネムシ類幼虫防除は挿苗前に畦内の元肥位置に散布し、土壌とよく混和する。生育後期では残効性が不十分になることがあるので、必要に応じ新生幼虫の発生期に作条処理する。生育期処理の場合もなるべく作条処理後土壌と混和するか軽く覆土する。成虫の発生が多い時は発生期に 10 日間隔で畦上に作条処理する。

【薬効・薬害等の注意】 ……………

- 本剤の使用に当たっては、薬害をさけるために、薬剤と種子又は植付苗を直接、接触させないように幅広く散布し、よく土壌と混和する。

【安全対策上の注意】 ……………

- つまみ菜、間引き菜には使用しない。
- 高温多湿時や疲労時の散布はさけ、また同一人が長時間継続して散布作業に従事しない。またハウスなど遮蔽された場所では使用しない。
- 散布に当たっては危害防止のため、散布対象作物が人の胸の高さ以上の場合は使用をさけ、下に向けて散布する。
- 共通注意事項 6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。
- 魚類、甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用方法】

作物名	適用害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む 農薬の総使用回数	メソミルを含む農薬 の総使用回数
はくさい	ネキリムシ類	4 ～ 6 kg	は種時	1 回	作条土壌 混和	1 回	2 回以内 (は種時の土 壌混和は 1 回 以内)
キャベツ			は種時、 定植時及び 生育初期 但し、収穫 30 日前まで	2 回以内		2 回以内	3 回以内
レ タ ス			植付時	1 回			
リーフレタス		6 kg					
だいこん	ネキリムシ類 キスジノミハムシ	4 ～ 6 kg	は種時			2 回以内 (生育期は 1 回以内)	2 回以内 (は種時の土 壌混和は 1 回 以内)
かんしょ	コガネムシ類幼虫	6 ～ 9 kg	植付時及び 生育期 但し、収穫 30 日前まで	3 回以内	植付時： 作条処理 土壌混和 生育期： 作条処理	3 回以内 (マイクロカ プセル剤の植 付前の処理は 1 回以内、マ イクロカプセ ル剤の散布は 2 回以内、粒 剤の散布は 2 回以内)	5 回以内
	ハリガネムシ類	9 kg	植付時 但し、収穫 30 日前まで	1 回	作条処理 土壌混和		
	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ	4 ～ 6 kg	30 日前まで	2 回以内	散布		
い ち ご	コガネムシ類幼虫	6 ～ 9 kg	植付時 (仮植床)	1 回	土壌混和	2 回以内	4 回以内
にんじん	ネキリムシ類	6 kg	は種前		全面処理 土壌混和	2 回以内 (は種前及び は種時は合 計 1 回以内、 生育期は 1 回以内)	2 回以内 (は種前の土 壌混和は 1 回 以内)
芝	スジキリヨトウ シバツトガ コガネムシ類幼虫 シバオサゾウムシ	6 ～ 10 kg	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内	4 回以内